

事業実績（研修）報告④

1. 研修の概要

- (1) 目的 コロナ経済対策、国、自治体はどう動く
- (2) 日時 1月29日（土）10時45分～16時
- (3) 場所 東京都渋谷区 市川記念会婦選会館（コロナ禍のため音声受講）
- (4) 参加者 鈴木規子

2. 研修内容と所感

市川房枝記念会女性と政治センター 政治参画フォーラム

(1) 基調講演「子どもの貧困をめぐる政策」

講師 末富 芳 氏（日本大学 理学部教授）

- ・イギリスの子どもの貧困対策の目標＝貧困の連鎖を断ち切る2つの重点戦略
 - ① 保護者の就労率の向上 ② 貧困層と非貧困層との学力ギャップの縮減そのために、政府統計（学力調査・家庭支援情報・保護者所得・就労状況等）のデータベースが子ども1人ひとりの個票レベルで接続されており、省庁の実務者級による戦略会議では、専門家の参画によるエビデンス分析と戦略設定が行われている。
- ・日本ではどうか？ 全国学力・学習状況調査で小学生の4%（20万人以上）中学生の約8%（20万人以上）が朝食を保証されていない事実は判明している。しかし、教育行政自体が貧困を認識できず、対策もない。「早寝・早起き・朝ご飯」運動で家庭の意識を向上させても改善できる問題ではない。教育活動の中に「貧困層ターゲット予算」が存在しない現実こそ、日本の政治の貧困そのものではないか。
- ・日英のデータを駆使し、判りやすく歯切れよい論理展開の結論は「子どもの権利から考え、子ども・若者の参画で考えを進めること」で締め括られた。

(2) 「ヤングケアラーと官民連携の那須塩原市ヤングケアラー協議会の取組みについて」

講師 仲田 海人 氏（那須塩原市ヤングケアラー協議会 作業療法士）

- ・ヤングケアラーとは、家族にケアを要する人がいる場合、大人が担うようなケア責任を引受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポート等を行っている18歳未満を言う。
- ・講師自身がうつを患う姉の介護から始まった家族の崩壊、病気の父親、20代にしてダブルケアとなったことによる多岐にわたる視点、看護や精神分析など支援方を提言。

<所感>

- ・子どもの貧困、ヤングケアラー問題、どちらについても本市の現状を改めて把握したい。

研修費	9,500 円	音声受講料として
資料購入費	2,000 円	書籍「ヤングでは終わらないヤングケアラー」
計	11,500 円	